

令和6年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書／事後評価書

団体名	特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター	
施設名	宮古市民文化会館	
内定額	6,013	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		309	306
年間事業本数（※1）	主催事業	22	21
	公演事業	14	12
	（内、本助成対象事業本数）		10
	人材養成事業	0	0
	（内、本助成対象事業本数）		
	普及啓発事業	7	6
	（内、本助成対象事業本数）		6
	その他 内容： 展示等	1	3
貸館日数	ホールごとの貸館日数	275	269
	ホール名： 大ホール 座席数： 1012	130	108
	ホール名： 中ホール 座席数： 362	145	161
	ホール名： - 座席数： -	-	-
	ホール名： - 座席数： -	-	-
	ホール名： - 座席数： -	-	-

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	13,117	13,971
	公演事業	12,386	12,397
	人材養成事業	0	0
	普及啓発事業	544	1,543
	その他 内容： 展示等	187	31
	貸館事業入場者・参加者数	23,929	14,730
	その他 内容： -	0	0
	計	37,046	28,701
施設の利用率(%)		85.4%	84.3%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	14	18	12,386	78.0%	5	2	1	3	0	1	1
	共催・提携公演(※2)	4	5	2,417	78.4%	1	3					
	貸館公演(※3)	17	17	7,382	58.9%	1	11	1	3	1	0	0
	計	35	40	22,185								
令和6年度	主催公演(※1)	12	15	12,397	82.1%	3	3	2	2	0	1	1
	共催・提携公演(※2)	2	3	835	83.5%	1	1					
	貸館公演(※3)	16	20	4,600	61.7%	1	12	0	0	1	1	1
	計	30	38	17,832								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数	入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業						
普及啓発事業	①事業評価:来場者等の満足度調査 ②事業効果:来場者等の文化芸術の関心度変化 ③波及効果:来場者等の地域・劇場への関心度変化 ④レジデントアーティスト評価:地域住民との交流人数・満足度	①満足度が70%以上 ②文化芸術のより関心が高まった割合が60%以上 ③地域・劇場へより関心が高まった割合が60%以上 ④地域交流人数1000人以上、満足度を70%以上	①満足度が98.5% ②文化芸術のより関心が高まった割合が34.7% ③地域・劇場へより関心が高まった割合が21.6% ④地域交流人数(作品鑑賞者含む):4024人、満足度97%	本事業では、地域の文化資源や社会的背景を的確に踏まえつつ、芸術性と地域性の両立を図る特色ある事業計画を策定・実施し、来場者満足度98.5%という非常に高い評価を得た。特に、滞在制作作品や先端的なテクノロジーを活用したWS、郷土芸能を多角的に発信する取組など、レジデントアーティストによる能力を最大限に発揮した高水準の制作が実現された点は、高く評価できると考える。地域交流事業の、参加者数4,024人、満足度97%を達成し、地域住民との新たな文化的接点を創出するとともに、圏域内外への文化的波及効果を期待させる成果を上げた。 一方、文化芸術及び地域拠点への関心度向上については、目標値には届かなかった。しかし、来場者体験の満足度が非常に高かったことから、既に一定の関心を有する層の参加が多く、関心の向上率として数値化しにくい状況であった可能性も推察される。今後は、未経験層や若年層への普及啓発を強化し、多様な観客層の育成を図る必要性を認識している。 総じて、本事業は、地域文化振興と交流促進に大きく寄与するとともに、地域文化の持続的な発展と、劇場・音楽堂等の中核的役割強化に向けた課題と展望を明確にする意義ある取組となった。	◇普及事業―01, 02, 03ともに、計画どおり、もしくはそれを上回る実施回数を実現している。 評価指標のうち、①と④については、目標値を大きく上回っている。指標②③について、目標値に届かなかったことから、控え目な自己評定にしたのだと推測するが、自らの振り返りにも記されているとおり、指標の選び方が適切ではなかったのではないか。普及啓発事業―01, 02, 03ともに、計画どおり、もしくはそれ以上の成果を得ているのではないかと考える。	指標②③については、アンケートの設問とその選択方法が適切ではなかった。指標及びその選択方法について、見直しを行いたい。

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(1)学校教育と劇場創作をつなぐ滞在制作モデルの確立 滞在制作によるブルーエゴナクの新作『立体で触れる文学／変身』を市内全高校生対象に上演した。本作は、教科書掲載文学作品を題材に演劇表現へ転換する「二軸」構成を採用し、学校教育と劇場創作の双方のニーズに応える内容とした。これを機に一部高校では授業でカフカ『変身』の事前学習を行い、「文字で読むだけではわからない、高い解像度で文学作品に触れることができた」と、教育的側面からの評価も高かった。また宮古市での初演後、東京・福岡でのツアー公演にも展開し、地域劇場による創作活動がアーティスト支援と都市部上演機会創出に寄与する成果を上げた。本取組は、地域文化施設におけるアーティスト・イン・レジデンスの有用性と可能性を示す実例となった。 (2)地域格差は正と創造性喚起 メディアアーティストによるアウトリーチ事業では、次年度以降に実施する演劇等との舞台芸術とのコラボレーションを目指し、多様なAI等テクノロジーを活用したプログラムを実施した。過疎化が進行する地域において先端テクノロジーに触れる機会が乏しい現状に対し、最新技術を積極的に導入することで、地域間格差の是正を図り、参加者の創造力喚起に寄与した。本取組は、文化芸術活動を通じた社会課題対応のモデルとなり、県内主要メディアにも広く報道されるなど、地域文化芸術振興への注目を高めた。 (3)郷土芸能の継承促進とビジュアルコミュニケーションの活用 郷土芸能祭では、出演団体にちなんだ「芸能カード」を制作し、来場者パンフレットに組み込んで配布した。カードをコレクション可能な形式とすることで、継続的な郷土芸能鑑賞への動機付けを促進。さらに、市内芸能の分布マップ、解説パネル、民俗芸能と連動したアーティスト・イン・レジデンス映像展示を併設するなど、ビジュアルコミュニケーションを駆使して、芸能の価値と魅力を多角的に発信した。これにより、郷土芸能の理解促進と次世代への文化継承に向けた新たな展開を図ることができた。 (4)地域文化資産の復元と創造的継承 郷土芸能祭時期に開催したアーティスト・イン・レジデンス事業では、民謡歌手・宇宙軒明星氏と津軽石さんさ踊り保存会が連携し、半世紀以上前に途絶えた舞唄の復元プロジェクトを企画・実施。地域住民への聞き取り調査や伝承資料の精査を通じた創造的復元作業により、約8割の再現に成功した。失われつつあった地域文化資産の保存・継承に向け、実質的な成果を上げた。 (5)ジュニア世代による地域間交流 本館を拠点に活動するジュニア・アンサンブルみやこは、事業終了後に震災経験地である熊本県を訪問し、復興支援演奏を行った。本取組は、日頃の継続的な活動が地域社会から高く評価され、多くの市民の支援を得て実現したものであり、単なる演奏披露に留まらず、被災地間の文化交流と心の復興支援を意図した活動であった。これにより、地域間の文化的絆を深める新たな文化芸術活動モデルを確立した。
--

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①三陸国際芸術祭と連携、芸能催事等を多言語で紹介。	①ホームページに多言語ページを設置:アクセスビュー数:年間1000	多言語翻訳機能をホームページに追加した。システム変更の都合により、ただしく実績ビュー数は測定できなかった	実績(値)の通りであるが、年間ビュー数は15,000以上となり昨年度から2,000ビュー近く増加したことから、一定の効果があったものとする。	◇定期的に多言語翻訳機能の使用状況が、把握できて分析できると望ましいが、在日外国人なのか、宮古に来訪する外国人なのか、想定される利用者像を明確にして、どのような情報発信が求められているか、モニターに意見を聞くということも必要ではないか。	想定する利用者層は、在日外国人および観光客(大型客船の寄港地、みちのく潮風トレイルのルート上にあるため)。観光客層への情報発信について、市国際交流協会や観光協会・観光事業者等と検討していく。

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

3月に開催した郷土芸能祭において、本事業では初となる在日外国人の来場があった。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
地域連携団体数(教育分野、福祉・観光・国際交流分野等)	教育分野:30団体(市内:幼小中高校28校・近隣市町村:小中2校) その他の分野:4団体(観光1、交通1、NPO1、福祉1)	教育分野:31団体(市内:幼小中高校28校、) その他の分野:4団体(観光1、市内地域団体1、市外教育1、市外商業施設1)	本館は、三陸沿岸地域における文化芸術の中核拠点として、地域の魅力を引き出すこと、被災後のコミュニティ形成、未来の担い手づくりを三本柱とし、地域特性に応じた総合的な文化芸術推進事業を実施した。 令和6年度は、地域連携団体数31団体(目標達成)、市内アウトリーチ(学校・福祉施設・過疎地域等)事業24件(目標超過)、子ども対象劇場鑑賞4,208人(満足度94.5%)、芸術体験事業(満足度98.3%)など、主要評価指標において、量・質双方で高い達成度を示した。特に、圏域を含む広域展開と、児童生徒を対象とした一貫的な鑑賞・体験機会の提供は、地域文化機会格差の是正と将来世代の文化基盤育成において顕著な成果を上げたものと評価できる。	◇震災の影響を受け、人口減少が進む地域で、子供たちに芸術文化に触れる機会を提供したり、文化芸術を通じてコミュニティの再生、つながりの創出に尽力してきた地域文化拠点として、十二分に成果をあげた。 ◇指標のうち、シビックプライドに関する指標に関しては、想定したほどの変化が得られなかったというが、自己分析のとおり、すでに地域や劇場への愛着を十分に感じていたという見方もできるし、また、普及啓発の3事業のみで地域や劇場への愛着や誇りを涵養し、高められるかという、こうしたことの繰り返しの蓄積のうえに醸成されていくものであるから、指標として目標の設定に誤りがあったのかもしれないと考える。調査方法と合わせて、再検討を要する。	・シビックプライドの目標設定および、調査方法について再検討する。 ・アウトリーチの実績公開については、詳細な情報を整理し、市民等へのアカウントビリティの充実および、広く活動のPRに資する発信を目指す。
市内(過疎・被災地域含む)や圏域(劇場がない市町村)での事業数	市内(過疎地域・被災地域含む)でのアウトリーチ:18件 圏域市町村でのアウトリーチ:2件	市内でのアウトリーチ:24件 圏域市町村でのアウトリーチ:2件			
被災後の市民文化団体活性化:市民文化団体の参画数、参加者数	市民文化団体17団体(芸術12団体、芸能5団体) 合計参加者600人	市民文化団体20団体(芸術15団体、芸能5団体) 合計参加者523人	市民文化団体支援においても、20団体への継続的支援と、通年型文化コミュニティ活動(3団体51名)の定着により、地域に根ざした文化芸術活動の裾野拡大と持続的支援基盤の形成を推進した。また、施設運営面においては、「職員対応」「施設案内」「設備状態」の各項目で96%以上の高満足度を記録し、ソフト・ハード両面において利用者サービスの向上に寄与した。	◇令和6年度の支援対象事業による成果と、それ以外の事業、あるいはこれまでの活動の蓄積による成果とが、総合して成果として記述されているように思うが、できるだけ、直接的な成果と、ほかの事業、活動と融合して得られた成果が分けて記述されることを望む。その観点からも来年度以降の成果指標や目標値の設定は一考されたい。	
被災後の市民文化コミュニティ創出:文化コミュニティ設置数・参加者数	通年活動市民コミュニティ3団体(市民劇1団体、ジュニア2団体) 合計参加者60人	通年活動市民コミュニティ3団体(市民劇1団体、ジュニア2団体) 合計参加者51人			
新たな文化コミュニティ創出の効果及び生活の質(QOL)の向上度	市民劇等の参加について「新しい仲間ができた」「生活を豊かにする」と回答する人が60%以上	市民劇等の参加について「新しい仲間ができた」「生活を豊かにする」と回答する人56.9% また、同時に集計した「再び参加したい」と回答した参加者が半数以上いた	文化芸術体験後の再参加意欲に関する調査では、「再び参加したい」と回答した割合が過半数を超え、単発的な鑑賞体験が持続的な文化関与意欲へと着実に結びついていることが明らかとなった。これは、文化拠点としての存在意義が地域社会に浸透しつつある成果を示すものである。 一方、「より地域や劇場への愛着・誇りを感じる」と回答した割合は20%に留まったが、満足度の数値から、すでに高い可能性があり、向上を明らかにすることができなかった。初期段階における体験満足度および再関与意欲の高さを基礎として、今後は、鑑賞後のワークショップ、地域団体への参画誘導、レジデンス体験やアートキャンプ等の継続型プログラムを整備・展開することで、地域愛着意識の段階的・持続的醸成を目指す方針である。	◇普及事業ー03で行われたアウトリーチの実践記録(日時、場所)がウェブサイトにてPDFで示されているが、対象者の属性やおよその人数など、実績についてより具体的にわかりやすい発信がなされると、より望ましい。	
全ての子どもへの劇場での鑑賞体験提供とその満足度	鑑賞:3000人(市内全児童生徒)、その満足度70%以上	鑑賞人数:4,208人(うち、助成対象事業3,454人)、満足度94.5%			
子どもへの芸術体験の提供とその満足度	体験(学校派遣):15コマ300人、創造体験(通年):50コマ40人、その満足度70%以上	体験(学校派遣):15コマ359人、創造体験(通年):88コマ参加者28人、満足度98.3%	総括として、本年度は、基本目標において、高水準の成果を挙げるとともに、文化拠点機能の持続的強化に向けた着実な基盤整備を進めた意義深い年度であったと自己評価する。次年度以降も、広域連携の深化、若年層へのアクセス強化、文化参画プログラムの重層化を通じて、地域社会に根ざした文化拠点機能の一層の高度化に取り組む予定である。		
シビックプライドの醸成	「地域(や劇場)に愛着(や誇り)を感じる」と回答する人が60%以上	「地域(や劇場)に愛着(や誇り)を感じる」と回答する人が20%			
貸館利用者の満足度	70%以上が対応に「満足」「ほぼ満足」と回答	「職員の対応」「施設内の案内表示」「設備の状態」「施設・客席等の状態」の全てにおいて96%以上			

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(1)市民主体の創造体制構築と持続的文化創造の定着
震災後、沿岸地域では文化部活動の消失や若年層流出により、地域文化基盤が著しく損なわれた。こうした状況を受け、みやこ市民劇では市民主体による創作体制を整備し、文化を通じた地域コミュニティの再生を目指した。コロナ禍で市内唯一の劇団が消滅する中、令和7年度には、みやこ市民劇参加メンバーによる自主団体「みやこ市民劇ファクトリー」が自主公演を予定している。これにより、市民主体の持続的な文化創造モデルが沿岸地域に根付きつつあり、震災・パンデミックを乗り越えた文化再生の好例となっている。また、宮古市を離れることを決めていた参加者が、市民劇の参加を経て市に残り、「みやこ市民劇ファクトリー」に参加するなどの事例もみられた。

(2)文化機会格差是正への貢献と地域文化需要の顕在化
周辺市町村へのヒアリングにより、近隣地域ではすでに首都圏からアーティストを招聘する事業が途絶えていることが判明した。文化機会格差が深刻化する中、本事業ではレジデントアーティストによる山田町・岩泉町でのアウトリーチコンサートを実施。普段プロの舞台芸術に触れる機会のない住民に生演奏を届け、商店街の一角で開催されたコンサートには世代を問わず住民が詰めかけ、立ち見が出る盛況となった。終了後には地域住民から「定期開催を望む」との要望が寄せられ、地域における新たな文化需要の萌芽を確認した。

(3)鑑賞機会の確保と次世代文化担い手育成
物価高騰により、近隣市町村では児童生徒向け芸術鑑賞事業の縮小が進んでいることがわかった。当館では招聘公演数を絞る一方、レジデントアーティストによる滞在制作発表(当館との共同制作)を鑑賞機会とすることで、全小中高生対象の年1回鑑賞プログラムを維持した。さらに、学校へのアウトリーチ(芸術体験型授業)や、ジュニア・カンパニー(演劇・音楽)への接続を促進し、能動的な文化参画を支援。学校アウトリーチは予定数を超える希望があり、拡充して対応した。またジュニアカンパニーによる他地域(熊本、盛岡等)での発表も実現し、次世代による積極的な文化交流・地域間連携の芽が育ちつつある。

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
受益者(観客及び参加者数の年齢構成)から多様性を判断。	0〜18歳:3,000名、19〜64歳:1,500名、65歳+:2,000名	0〜18歳:4337名、19〜64歳:約700名、65歳+:約850名	本普及事業の受益者(観客・参加者)については、0〜18歳の児童生徒が4,337名と全体の過半を占め、次世代層への文化芸術体験機会の提供が堅調に推進された。年間、市人口は約2%が減少し、65歳以上層についてはコロナ禍以降の施設への来場が減少している。要因として施設の周辺の公共交通環境の課題もある。自家用車の運転が困難な年齢になると施設へのアクセスが非常に難しくなることが伺える。 参画アーティスト・講師陣は、県内12名、県外11名、性別は男性7名・女性16名、年齢層は30代を中心に、若手から中堅・ベテラン層まで幅広く構成され、多様な専門性と視点を取り入れる体制を構築した。 また、経済的障壁を軽減する施策として、U18チケット制度やワンコイン公演(7公演)を実施し、年齢・経済状況に関わらず幅広い層の参加機会を確保した。さらに、学校・福祉施設・過疎地域・圏域市町村を対象としたアウトリーチ活動も21回・584人に実施し、地域格差是正にも一定の効果を上げた。 アクセシビリティ向上策としては、英語併記によるサインを試行したが、実施は1公演に留まった。なお該当公演以外は、外国人来場者がいなかった。	◇18歳以下の参加者は目標値を大きく上回っているのに比して、壮年、高齢者の享受者総数が目標値から大きく下回ってしまったのは、改修によって大ホールが使えなかったという状況でやむを得ないとはいえ、残念だった。今後は、全年齢層が集う「みやこ市民劇」「みやこ市民芸能まつり」「みやこ郷土芸能祭」などへの参加度を高めるとともに、高齢者に向けたアウトリーチ活動についても、充実していくように期待する。	次年度も改修工事が続くため、社会福祉団体等と連携し、高齢者を対象としたアウトリーチ活動の実施についても取り組む。
主たるアーティスト・講師*の居住地・性別・年齢構成 *直接、謝金等を支払うものを主な対象とする。	県内:12名、県外:11名、性別:男性7名、女性16名 年齢構成:2、30代17名、4,50代5名、60代以上1名	県内:12名、県外:11名、性別:男性7名、女性16名 年齢構成:2、30代17名、4,50代5名、60代以上1名			
U18チケットのある演目又はワンコイン公演の実施	U18チケットのある演目又はワンコイン公演:6公演	U18チケットおよびワンコイン公演:7公演			
学校・福祉施設・過疎地域・圏域市町村等でのアウトリーチ数・参加者数	20回 500人	21回 584人			
主催する公演等のイベント時の表周サイン表記の英語併記	3公演	1公演			

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(1)次世代担い手の発掘・育成に向けた取組
こども劇団「みやこディジー」では、次年度の入団を希望する小学生を対象に見学・体験機会を提供した。子どもたちは台詞練習や基本動作を通じて舞台芸術の魅力に触れ、「来年、絶対に入りたい」とこれまでにない評価につながった。これにより、次世代担い手層の早期発掘と興味喚起が着実に進んでいる。また、プロモーション用動画も制作し、活動内容を可視化することで地域内外への期待感醸成を図った。

(2)幅広い世代を巻き込んだ市民参加
みやこ市民劇では、宮古市及び近隣市町村から、小学1年生から74歳までという幅広い年齢層の約100名がキャスト・スタッフとして参画。今回初参加の20名のうち、3名が演劇活動の継続を希望し、新たに「みやこ市民劇ファクトリー」への入団に至った。これにより、世代を超えた地域文化創造活動の担い手層拡大につながった。

(3)過疎・被災地域および福祉施設でのプログラム
周辺市町村を含めた過疎地域や、東日本大震災で特に大きな被災を受けた地域、ならびに福祉施設を対象に、文化芸術アウトリーチ事業を展開した。移動困難や文化機会格差といった地域課題に対し、直接現地に赴く形で演奏会やワークショップを実施し、普段文化芸術に触れる機会の少ない住民や施設利用者に文化体験を提供した。参加者からはなかなか劇場まではいけないうなか、「これまで触れる機会のない分野で楽しかった」「また来てほしい」といった声が多数寄せられ、文化芸術活動が小規模集落や福祉分野において、情緒的支援や社会的つながり形成に実質的に寄与することが確認された。

評価項目⑤:自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥: 運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	事業に応じて企業協賛金や補助金等を募るほか、共催団体による負担を依頼予定。	企業協賛: 50万円 共催団体負担(補助対象外経費) 50万円程度	企業協賛: 40万5千円(補助対象外経費) 共催団体負担: 20万円程度	昨今の物価高等の影響を市内企業も大きく受けており、目標数から大きく下回った。会館事業への理解を深め協力的な企業を作っていくことが課題と考える。※企業協賛はみやこ市民劇実行委員会の事務局として本館が集金し事業に充てた。	経済環境が好況とはいえないなかで、法人としては今期は財政面では若干の赤字を計上したものの、宮古市民文化会館としては全般的に堅実な運営がなされていると評価する。	共催団体等の資金調達のサポートなども行い一層の事業の安定化に努めたい。
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	年齢構成ごとに広報計画。市広報誌、ラジオ番組のほか、新世代に向けた動画製作やSNSでPR。	年齢構成ごとに広報計画。市広報誌、ラジオ番組のほか、新世代に向けた動画製作やSNSでPR。	市広報誌: 11回掲載 ラジオ番組: 2回出演 CM: 4本 動画製作: 4本 SNS媒体: 3つ	SNSでの広報での来客も徐々に増えてきているため、今後も活用していきたい。	劇場が発信するだけでなく、協働相手や情報を受信した人たちが派生的に広報したくなるよう、いわば広報の応援団ができるように連携を工夫されてはどうか。	地域イベント情報交換会(市内の有志団体で構成)に参加し、事業について発信を一層促進するほか、市民参加者等を通じたPRIにも努めたい。
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	アーティスト招聘時、東京からの経由地である盛岡市内での事業なども展開する。	近隣市町村に劇場がないため、近隣2市町村と連携し、アウトリーチコンサートを2回実施。	近隣2市町村と連携し、アウトリーチコンサートを2回実施。	目標値は達成したが、今後より需要が高まってくるものと思われるため、継続実施を目標に関係を持っていきたい。	引き続き、工夫されることを期待したい。	近隣市町村の要望やニーズも伺いながら、緩やかな協力体制を拡充していきたい。
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	設置者とは主要事業について良好な連携を図っており、相互協力体制がある。	関係性を継続しつつ、最新の文化行政の変化等について設置者と共有や協議を継続する。	学校鑑賞や郷土芸能は設置者と共同で事業を実施。その他課題も共に協議している。	関係性を継続し、より密に情報共有を図っていきたい。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	芸術監督1名、プロデューサー1名を配置。	芸術監督1名、プロデューサー1名を配置。	芸術監督1名、プロデューサー1名を配置。	今度も同様の配置を行う。		
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	総合プロデューサー1名(複数劇場運営経験者)、館長(市幹部経験者)を配置。	総合プロデューサー1名(複数劇場運営経験者)、館長(市幹部経験者)を配置。	総合プロデューサー1名(複数劇場運営経験者)、館長(市幹部経験者)を配置。	今度も同様の配置を行う。		
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	プロデューサーの専門性を踏まえ、積極的にディレクター及び担当者の育成に努めている	継続して育成していく。	内部研修及び、外部研修を促して育成に努めている。	年間の事業計画にあわせ育成プログラムを組めるよう努力していきたい。		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	館長(管理)と、芸術監督・プロデューサー(事業)ラインで、職能ごとに役割分担をしている。	継続して業務にあたる。	継続して業務にあたる。	各種役割分担を継続し業務にあたる予定。		
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	雇用割合としては若年層が多い。	人材育成の観点から継続して年齢バランスに考慮していく	人材育成の観点から継続して年齢バランスに考慮していく	今後も年齢バランスに考慮していく。		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	職員の半数以上が女性であり、キャリアに応じリーダー職への登用を行っている。	積極的に登用を図るため、リーダー育成にあたる。	積極的に登用を図るため、リーダー育成にあたる。	今後も継続してリーダー育成にあたる。		
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	産前産後休暇、育児休業・介護休業の規定を設けている。両立支援制度を整備している。	継続して推進する。	継続して推進する。	今後も継続して推進する。		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	個人情報取扱規程を策定している。年1回の研修を実施予定。	定期的な研修を実施する。	定期的な研修を実施する。	今後も継続して実施する。	劇場事業の従事者にとって、働きやすい場であるよう継続されることを期待する。	
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	就業規則にセクシュアル・ハラスメント防止の規定を設けている。年1回の研修を実施予定。	指針等を策定・周知し必要な研修を実施する。	就業規則にハラスメント禁止の規程を設けるとともにハラスメント防止規程を新たに策定、周知している。	定期的な見直しやハラスメント事例の共有などを行いたい。	劇場事業の従事者にとって、働きやすい場であるよう継続されることを期待する。	
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	実施している。	継続して実施していく。	継続して実施していく。	継続して実施していく。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

当館では、東日本大震災以降、人口減少と少子高齢化が進行する岩手県沿岸広域圏において、地域の文化生態系の再構築を目的に、事業を実施してきた。文化芸術を通じた地域社会の再生、年齢や立場を問わず誰もが関われる場づくり、そして地域資源の持続的活用を柱に、地域の実情に即した多層的な取組を展開した。本事業では、「文化生態系の再構築」に向け、三つの柱を軸に据えて推進した。①市民主体による文化基盤の再生を目指す「コミュニティ再生」、②アーティストとの協働によって創造的循環を生み出す「アーティスト・イン・レジデンス」、③地域固有の伝統資源を現代的な視点から継承・発信する「郷土芸能の再評価と発信」である。これらの取組は、相互に補完し合いながら、地域に根ざした文化の再編と未来志向の拠点機能の形成に寄与した。①「コミュニティ再生」では、市民参加型の創作劇や地域団体との協働を通じて、住民が文化活動の担い手として主体的に関わる機会を拡充した。特に、市民劇の実施は、地域コミュニティの代替機能としての劇場の可能性を示し、世代を超えた交流や「住み続けたいまち」への意識醸成にもつながった。また、コロナ禍以降に文化団体の活動が縮小する中で、市民劇による新たな担い手の創出と、ジュニアカンパニーを通じた若年層の育成を並行して進めることの重要性が再確認された。継続的な活動を通じて、市民による演劇活動の再活性化や、熊本県へのジュニアカンパニー派遣など、劇場の枠を超えた成果も得られた。②「アーティスト・イン・レジデンス」では、創作活動に加え、地域住民との交流プログラムを展開した。舞台芸術に加え、AIやメディアアートを活用したアウトリーチを教育現場に導入し、文化的・地理的格差の是正にも取り組んだ。プロ奏者による演奏会の実施に際しては、開催機会の少ない近隣市町村での需要の高さが明らかとなり、今後の展開に資する知見が得られた。演劇作品『立体で触れる文学／変身』は、市内高校生への初演を皮切りに福岡・東京への巡演を果たし、地方創作が都市部でも評価される好循環のモデルとなった。こうした成果は一部映像記録として保存・公開され、地域文化の可視化および他地域への波及モデルとしての価値を持つものとなった。③「郷土芸能の再評価と発信」では、郷土芸能祭の開催に加え、レジデントアーティストとの交流機会を設けた。伝統文化と現代芸術の交差により相互の活性化を図るとともに、「津軽石さんさ舞唄」の復元プロジェクトでは、聞き取りや資料調査に基づき約8割の再現に成功した。創造的な文化継承の取り組みとして高く評価できる事例となった。さらに、郷土芸能カードや分布マップ、解説パネル、映像展示などを用いたビジュアル・コミュニケーションにより、世代間の理解と関心を深める工夫も実現した。これらの包括的な取組の成果として、来場者満足度は98.5%、またレジデントアーティストとの地域交流（作品鑑賞を含む）の参加者数は4,024名（満足度97%）に達し、地域住民の文化参加意欲の高まりが定量的にも確認された。一方で、若年層を中心とする新たな関心層の掘り起こしは、今後に残された重要な課題である。次年度以降は近隣の市町村を含めた中学校・高校との連携のほか、「観客」から「共創者」への意識転換を促す参加型プログラムの導入により、裾野拡大を図っていく。総じて、本事業は、当館が沿岸広域圏における持続可能な文化発展の基盤形成に寄与していると考えている。今後も、創造的・社会的・経済的価値のバランスを踏まえ、地域社会と連携しながらその機能の深化と広域的な展開を目指していく。なお、宮古市民文化会館の広域的機能の実態を把握するため、令和7年1月から3月にかけて岩手県沿岸広域圏（12市町村）を対象にヒアリング調査を実施した。調査結果を踏まえた事業内容の調整および発展については、令和8年度以降に検討を進めていく。

・ 所見

◇3つの普及啓発事業が有機的に組み合わせられ、概ね計画どおりに実施されて成果をあげている。地域の特性と課題、劇場の強み、弱みを踏まえたうえで事業が計画・実施されていることを評価したい。「コミュニティの再生」「アーティストとの協働」「郷土芸能の再評価と発信」は、言うは易くとも、実現は一朝一夕でできることではなく、今後も粘り強く継続されることを期待する。

◇人口減少、少子高齢化の進展が著しいなかで、事業成果を上げ続けることは容易ではないと推察されるが、日々の努力の積み重ねで、地域の人々を結びつけることが蓄積されつつあることは評価できる。これまでの成果の効果的な発信によって、地域文化拠点としての信頼度がより高まるのではないかと期待される。リソース、マンパワーが限られるなかで発信力を高めるためにも、関係諸団体との連携のうえに、効果的な広報が展開されることを期待する。

◇また、活動範囲を宮古市内の行政区域に限定するのではなく、岩手県沿岸部の中核的な地域文化拠点として、圏域内の他市町村とも連携して活動を展開しているところを高く評価する。